仕　　様

■3tフロアージャッキ 仕様

ジャッキ最大耐荷重	3000kg
最縮長	148mm
ストローク	382mm
最伸長	530mm
サドルサイズ	φ60mm / 肉厚 約4mm
ハンドルサイズ（全長）	約545mm
ハンドル取付後全長	約1210mm
ハンドル操作力	50kg
油　　量	140cc
作動油	油圧潤滑油
使用温度範囲	−20°C〜60°C
本体サイズ/重量	710（W）×180（H）×185（D）mm/17.6kg

※本製品の仕様及び装備・カラーは改良の為、予告なく変更する場合があります。

eltec
大自工業株式会社
〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-126
TEL.072-976-0101（代）
http://www.daiji.co.jp/　Eメール:info@daiji.co.jp

MADE IN CHINA

eltec Mechanical electrotechnics **F-90**

SUV・4WD・ワンボックスに最適!

HIGH LIFT

3t 油圧フロアージャッキ

タイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備をスムーズに…

取扱説明書

この度は、「F-90　3t油圧フロアージャッキ」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品を正しく安全に、ご利用いただくため、また本製品の機能を十分に活かしていただくため、ご使用前に、この取扱説明書を良くお読みください。
尚、この取扱説明書は大切に保管しておいてください。

あらゆる状況に対応しサポートする

自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備をスムーズに…

■使用上の注意（重要）

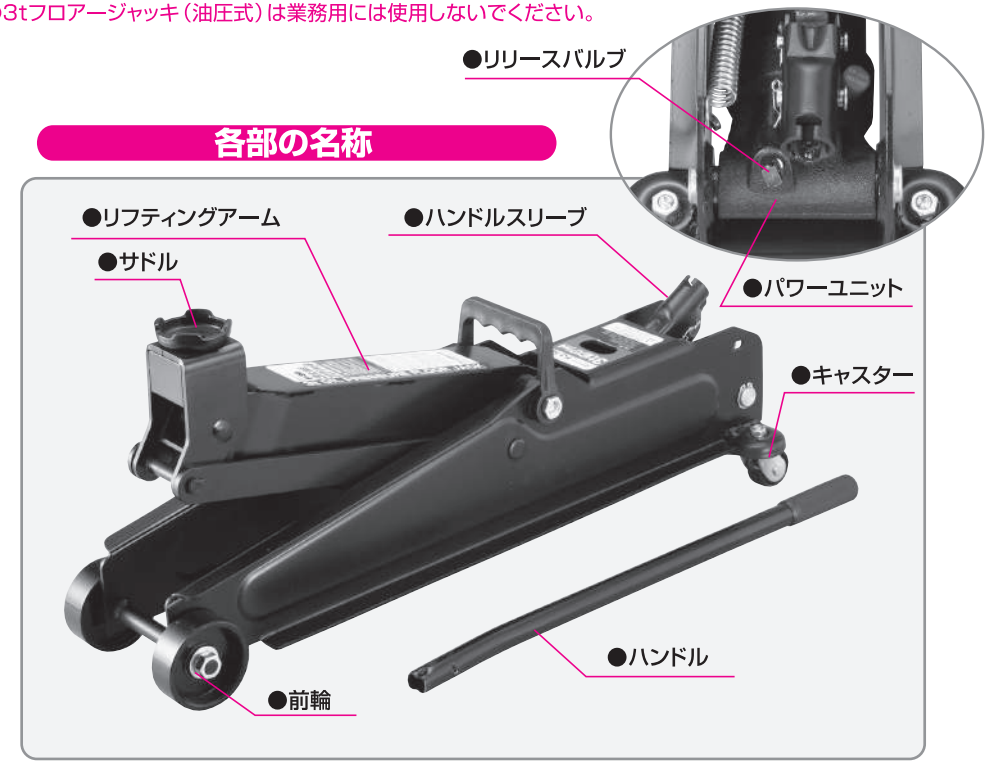
⚠ 危険

●ジャッキを改造したり用途以外の目的で使用しないでください。
●取扱説明書をよく読み十分理解された上で使用してください。取扱説明書には重要事項の説明が記載されています。記載内容に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。
●安全バルブは出荷時に安全荷重に調整されていますので調整等は絶対にしないでください。
●自動車をジャッキアップ及びジャッキダウンする際は車体の下に人や物などがないことを確認してから作業を行ってください。
●ジャッキに異常が発生した場合（オイル漏れ、フレーム変形等）、使用を中止して、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキを使用せず、直ちに販売店又は当社宛へご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながる危険があります。
●3tフロアージャッキ（油圧式）の能力（3t）以上の負荷で使用しないでください。

⚠ 注意

●ジャッキ2台以上の同時使用はしないでください。
●3tフロアージャッキ（油圧式）は−20℃〜60℃の温度環境で使用してください。
●3tフロアージャッキ（油圧式）は業務用には使用しないでください。

各部の名称

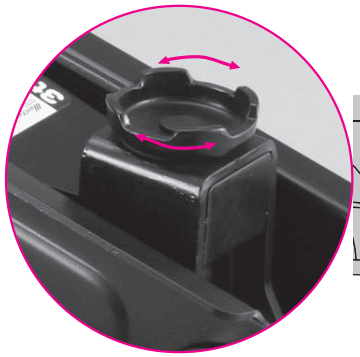


安全にお使いいただくために

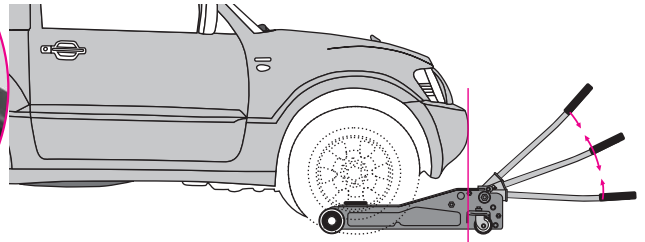
■使用目的

3tフロアージャッキ（油圧式）は自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備の際に自動車をジャッキスタンド等で保持させる為に、ジャッキアップまたは、ジャッキダウンさせる目的で使用するジャッキです。
3tフロアージャッキ（油圧式）はジャッキアップ状態での洗車作業等には使用できません。

サドル360度回転式

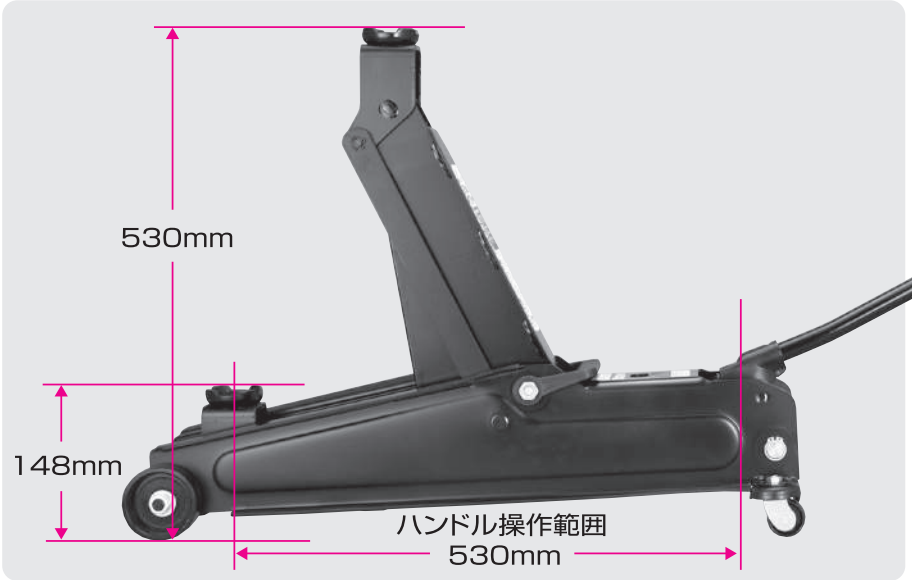


有効範囲図



これ以上車体の下に入れると
ハンドルの上下操作ができなくなります。

最縮長・最伸長



安全上のご注意 ●ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、よく理解された上で正しくお使いください。

F-90 3t 油圧フロアージャッキを

安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください。

お買い上げいただいた製品本体表示および取扱説明書には、使用者や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本器を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を表示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

3tフロアージャッキ（油圧式）

⚠ 危険

●電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ時、必ず車両の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。
車高がかわり思わぬ事故につながる恐れがあります。

●ご使用前に無負荷状態でジャッキアップテストを行ってください。
もし不具合な点がありましたら、ただちに使用を中止してください。そのまま使用しますと車両やジャッキの破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。不具合な点がありましたら、必ずご使用前に販売店又は当社宛ご連絡ください。また、使用して製品に異常がでましたらすぐに使用を中止し、販売店又は当社へご連絡ください。

●絶対に耐荷重以上の荷重をかけないでください。
ジャッキが荷重に耐えられずジャッキスタンドが破損し車両が落下するばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキアップする車両のまわりに人がいないことを確認してください。
ジャッキアップの際、まわりに人がいた場合、万が一車両が動きますと、ケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。ジャッキアップ車両の3メートル以内に、人がいない事を確認してから作業を行ってください。

●ジャッキアップする車両のまわりに他の車両や物がないことを確認してください。
ジャッキアップの際、万が一車両が動きますと、ジャッキアップ車両が他の車両や物に衝突する恐れがあります。ジャッキアップ車両の、まわりに他の車両や物がないことを確認してから作業を行ってください。

●ジャッキアップする際は、必ず水平で、コンクリート等の固い場所で行ってください。
設置面が柔らかい場合、荷重により本製品の車輪が設置面に埋まり、設置面を傷付けるばかりでなく、ジャッキが傾き車両が落下する恐れがあります。斜面でのジャッキアップも同様で、車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキアップの前に、必ず車両のサイドブレーキを引いて、上げないタイヤに車輪止めをしてから行ってください。
そのままジャッキアップしますと車両が動き、ジャッキが外れ車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなりますので必ず行ってください。

●ジャッキアップする際には、必ず車両メーカー指定のジャッキポイントでジャッキアップしてください。
強度不足の場所でジャッキアップを行いますと、車両の破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。

●車両指定ジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキのサドル形状とジャッキポイントの形状が合っているか必ず確認してください。
ジャッキのサドルが、ジャッキポイントに合わない場合に無理にジャッキアップしますと、ジャッキポイントの破損ばかりか、ケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。

●ジャッキアップをして作業する場合は安全の為、必ずジャッキスタンドで車両を支えてから行ってください。
ジャッキだけで支えた状態は1点だけで支えているためバランスが悪く、作業を行いますと車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなります。必ず作業する際は2個のジャッキスタンドで確実に車両を支えてから行ってください。

●ジャッキアップ中に車両の下に頭や体を入れないでください。
万が一、ジャッキアップ中にジャッキポイントからサドルがズレて落下した場合、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキを下ろす際は、車両の下に人がいない事とジャッキを下ろす人の体が車両に当たらないかを確認してください。
人が車両の下に入っている状態でジャッキを下ろしますと、車両に押しつぶされケガだけではなく人命にかかわる事故を引き起こすことになります。また、ジャッキを下ろす人やそれ以外の人の体が車両に当たる位置にいますと下ろした時に車体が体に当たりケガをする恐れがあります。

●車両をジャッキアップしたまま離れないでください。
車両から離れている時に、万が一、使用者以外の人が車両やジャッキを触ったりしますと、ジャッキの破損や車両が落下し車両の破損だけでなく、使用者以外の人にもケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。

⚠ 注意

●ジャッキを下げている途中に、ジャッキのハンドル以外の場所には絶対に触れないでください。
ジャッキの可動部分に手など触れますと、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。

●ジャッキの持ち運びをする際に、指などをはさまないよう注意してください。
ジャッキの可動部分に指などを入れますと、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。また、1人で持って重いと感じましたら無理に1人で持たず、2人以上で持ち運びしてください。ジャッキを路面に下ろす際も路面とジャッキの間で指をはさんでケガをしないよう十分注意してください。

●ジャッキのハンドルはジャッキアップの時以外は、必ず外してください。
使用者や使用者以外がハンドルにつまずいてケガをする可能性があります。又、ジャッキがはずれ車体が落下する恐れがあり大変危険です。ハンドルは本体から外しておいてください。

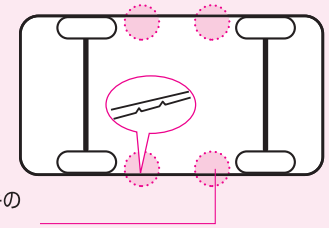
●ジャッキを下げる時は、必ずハンドルでリリースバルブをゆっくりとゆるめてください。
バルブをゆるめる際、かたくなっていますので力強くバルブをまわしますと、車両が急激に落下しますので、車両及びジャッキの破損につながります。バルブをゆるめる要領としまして、まずゆるめる側（左側）へまわし、バルブがまわったらすぐしめる側（右側）へまわして少しずつ下げていくようにしてください。

●ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがズレる事がありますので時々確認してください。
ジャッキポイントからサドルがズレ、外れてしまうとジャッキの破損ばかりではなく、車両の破損につながりますので時々チェックしてください。

●ジャッキアップの際は必ず各車両指定のジャッキポイントを確認してください。

指定以外の位置でジャッキアップしますと、その部分が破損する恐れがありますので、必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してから行ってください。また、わからない時は車の販売店などで確認してください。

ジャッキポイントは使用されるまえに、カーディーラー及び整備工場で必ず確認してください。純正ジャッキ用のポイントでは車両を破損させる場合があります。



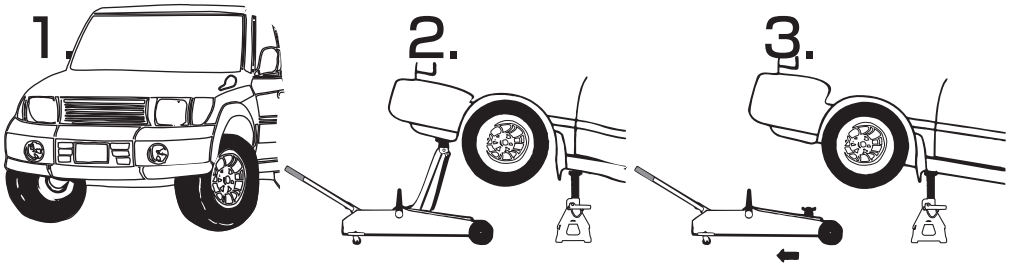
※このジャッキポイントは、車両に備え付けのパンタジャッキのジャッキポイントです。　ご使用は絶対に止めてください。
※使用する場合（車両の側面からのジャッキアップ）は、必ずジャッキアタッチメントを使用してください。（P.8参照）

車両をジャッキアップさせる作業は様々な危険がともなうものですので、十分注意し慎重に作業を行ってください。

フロントジャッキアップ手順

●電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ時、必ず車両の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。
車高がかわり思わぬ事故につながる恐れがあります。

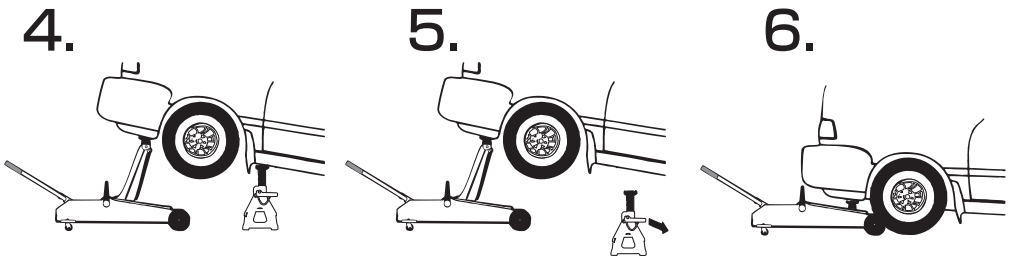
フロント（リア）からジャッキアップ出来ない車種もあります。



①フロアージャッキを使用してセンターでジャッキアップします。

②ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。

③フロアージャッキを下げて移動させます。
※車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業をします。



④作業が終わりましたらフロアージャッキで車体を再度ジャッキアップします。

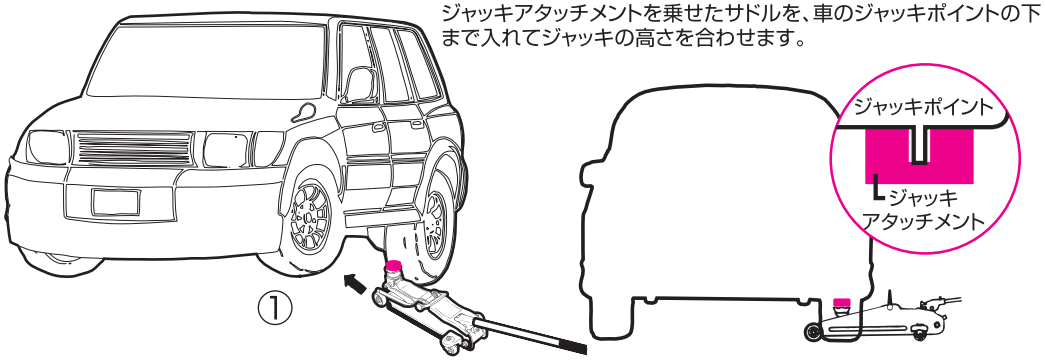
⑤ジャッキスタンドを取り除きます。

⑥フロアージャッキをゆっくり下げます。

ジャッキアップ手順

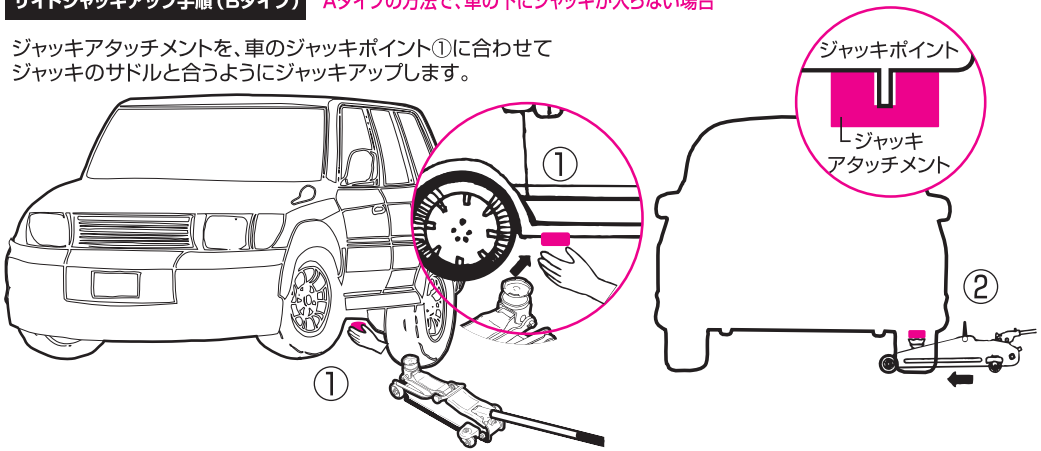
サイドジャッキアップ手順（Aタイプ） ジャッキアタッチメントをサドルに乗せる。（必ずジャッキアタッチメントを使用してください。）

ジャッキアタッチメントを乗せたサドルを、車のジャッキポイントの下まで入れてジャッキの高さを合わせます。



サイドジャッキアップ手順（Bタイプ） Aタイプの方法で、車の下にジャッキが入らない場合

ジャッキアタッチメントを、車のジャッキポイント①に合わせてジャッキのサドルと合うようにジャッキアップします。

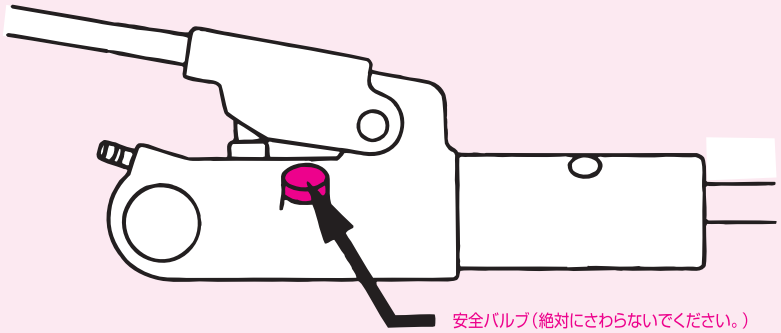


安全バルブ（DO NOT ADJUST）について

●フロアージャッキには、安全バルブが付いておりますが、このバルブはジャッキアップが適正な荷重になる様に出荷時に調整されておりますので、絶対にさわらないでください。
（ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっています。）

⚠ 注意

●本製品を使用する際は、必ず3t以下の荷重にてご使用ください。
●車両をフロアージャッキで上げたまま触れないでください。
●フロアージャッキで上げたまま車両の下に、絶対にもぐらないでください。大変危険です。
●車両の下で作業をする場合は必ずジャッキスタンドを使用してください。
●本製品は、業務用には使用しないでください。
※フロアージャッキを下げる際は、バルブを必ずゆっくりとまわし、ゆるめてください。
（急に回しますと、車両がいっきに下がりますので危険です。十分注意してください。）

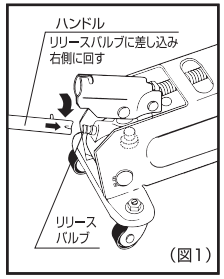


安全バルブ（絶対にさわらないでください。）

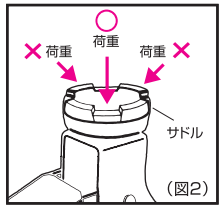
ご使用方法

ジャッキアップ

①水平で堅い路面にジャッキを置き、ジャッキポイント※の位置にサドルをセットしてください。
※ジャッキポイント:車体下部にあるジャッキのサドルを当てるための最適な箇所（フロアージャッキ用のジャッキポイントは車種によって異なりますので自動車に添付のマニュアルや自動車メーカー、販売店に問い合わせる等、事前に確認してください。）
②ハンドルの先端をリリースバルブに差し込み、ハンドルを時計方向（右側）に回してリリースバルブを締めます。締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしませんので、しっかりと締め付けてください。
（図1参照）
③ハンドルをハンドルスリーブに差し込み上下に動かし、サドルをジャッキポイント付近まで上昇させた後に一度停止させて、荷重の中心がサドルの中央にかかる事を確認してください。
（図2参照）
④確認後、ハンドルを上下に動かしてください。サドルが上昇し、自動車をジャッキアップします。

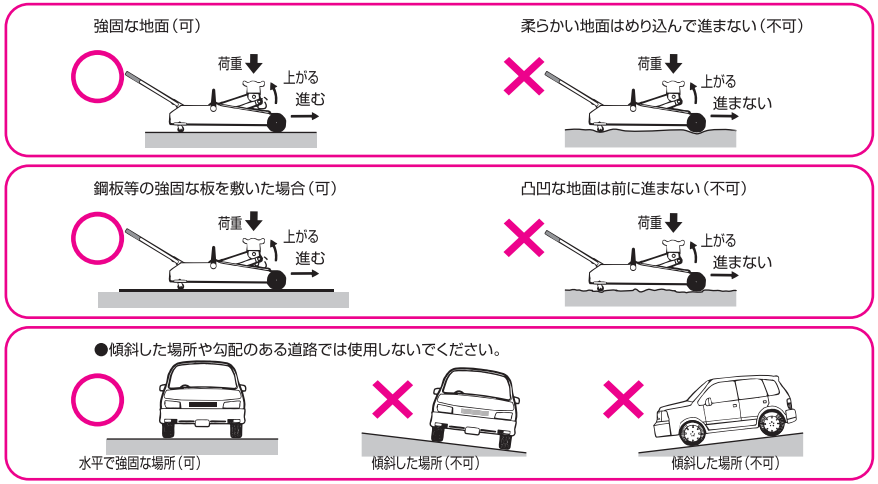


（図1）

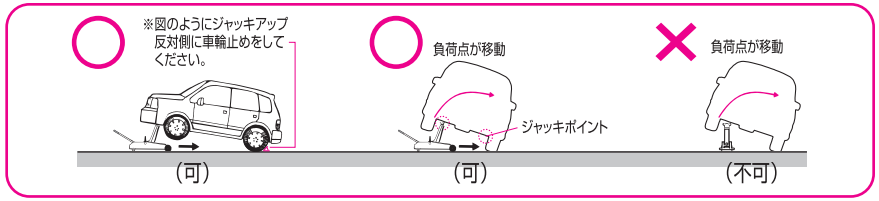


（図2）

⚠ 危険 ●傾斜地や地面が軟弱な場所、及び平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では、使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。また,傾斜地ではジャッキアップ中に自動車が動きだして重大な事故になります。



●サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認した上で、使用してください。ジャッキが追従して移動できない場合、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。

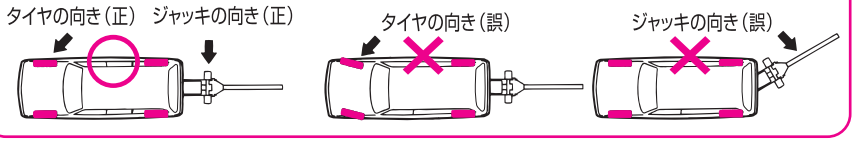


●自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

⚠ 危険 ●ジャッキアップの際は車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。

●サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置（荷重の中心がサドルの中央にかかる位置）にセットされている事を確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

●車のタイヤは、車の直進方向にして、ジャッキを車に対してまっすぐに入れてください。



⚠ 注意
●荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
●自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
●ジャッキアップは、自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはロー（A/T車は［P］パーキング）の位置で行ってください。
●左右両輪をジャッキアップする場合は、必ず車輪止めを使用してください。
●ハンドルの上下操作は、ハンドルをしっかり握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはね上がったり、急に操作が軽くなることがあり、ケガをすることがあります。
●パンタジャッキ用（サイドジャッキアップ）のジャッキポイントでは、ジャッキアップしないでください。自動車のジャッキポイントが変形します。※パンタジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップする場合は、必ずジャッキアタッチメントを使用してください。

一定の高さで停止する場合

ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

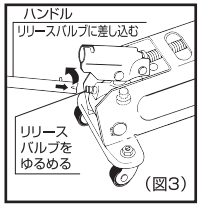
⚠ 危険 ●ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。車体の下に入って作業をする場合は必ず十分な耐荷重のあるジャッキスタンドを使用してください。
●ジャッキアップした状態のまま自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。

ジャッキダウン

ハンドルの先端をリリースバルブに差し込み、反時計方向（左側）に、ゆっくり回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。
（図3参照）

⚠ 危険 ●ハンドルを急に回さないでください。サドルが急激に降りるため、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う恐れがあります。

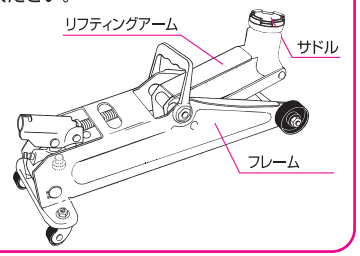
⚠ 注意 ●故障の原因になりますので、リリースバルブは3回以上回さないでください。



（図3）

作業終了

作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取ってください。



メンテナンス

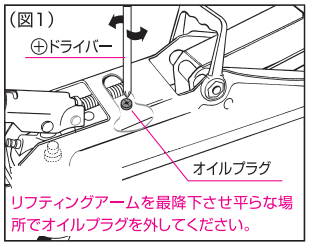
ジャッキのお手入れ

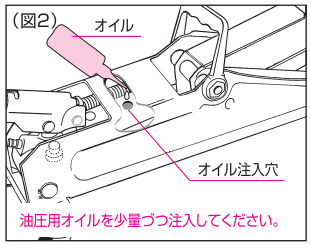
①ジャッキを使用しないときは、錆などによる動作不良防止のため、リフティングアーム及びハンドルスリーブを最下位の位置に下げておいてください。
②ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
③オイルの量が減少した場合、適量を補充してください。（下記ジャッキオイルの補充及び交換参照）
④頻繁にご使用になる場合は、最良の状態で長期間保持させるため約1年毎にジャッキオイルを交換してください。
（下記ジャッキオイルの補充及び交換参照）
⑤保管する際は、錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たるところ及び湿気の多いところには保管しないでください。

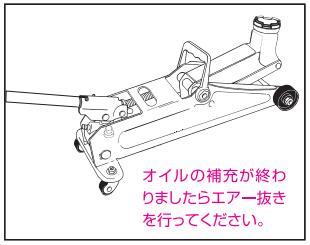
ジャッキオイルの補充及び交換

①オイルプラグをプラスドライバーなどで外してリリースバルブをゆるめます。（図1）
②オイルプラグの穴を下に向けて、古いオイルを排出してください。（オイル交換時）
③ほぼ完全に排出した後にジャッキオイル（F-62別売）をオイルプラグの穴から入れすぎに注意して少量づつ注入してください。
また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。（図2）
④ジャッキオイルの適正量は、リフティングアームを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けた位置です。（約140cc）
⑤ジャッキが途中までしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足、又はエアー抜きが完全に出来ていない事が考えられますのでジャッキオイルを適正な量まで補充して、エアー抜きをしてください。
⑥補充作業が終了しましたら、オイルプラグを元の状態に戻してください。

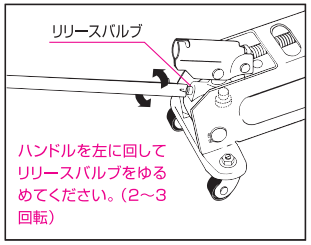
ジャッキオイルの補充方法

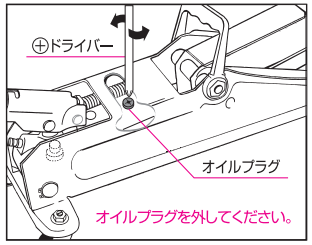


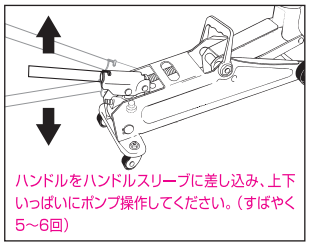




エアー抜き方法







●正常に作動しない時は、2〜3回くりかえして行ってください。

⚠ 注意

●火気のある場所、又はその近くでオイル交換及び補充をしないでください。
●ジャッキオイルは指定されたものを使用してください。
エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。
作動油：油圧潤滑油（粘度：ISO 32 第4石油類危険等級Ⅲ又はF-62 ジャッキオイルをお薦めします）
●ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯にジャッキオイルを入れるとジャッキが作動しません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けてください。

故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。
それでも、状態に変わりがない場合は、お買い上げの販売店又は、当社へご相談ください。

こんなときは

- 全然上がらない
  - リリースバルブが完全に締まっている
    - YES → ジャッキオイルが入っている
      - YES → 販売店又は当社にご相談ください
      - NO → ジャッキオイルを補充する
    - NO → 確実に締める
- 途中までしか上がらない
  - ジャッキオイルが不足している
    - YES → ジャッキオイルを補充する
      - YES → 余分なジャッキオイルを出す
      - NO → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → ジャッキオイルが多く入り過ぎている
- 自然に下降する
  - リリースバルブが完全に締まっている
    - YES → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → 確実に締める
- 下がりきらない
  - しゅう動部に注油されている
    - YES → オイルタンク部に空気が入り過ぎている
      - YES → サドルを最低位置まで下げオイルプラグを外して空気を抜く
      - NO → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → 注油する

関連商品（別売）

F-23 ジャッキスタンド2

●安全性を重視した設計
●6段階調節タイプ

最大耐荷重：4トン
ストローク：260〜410mm
商品サイズ：208（W）×260（H）×190（D）mm
重　　量：約2.8kg×2台

F-62 ジャッキオイル（200㎖）

油圧作動油、高速度軸受油と
幅広い用途の高級潤滑油。
ベースオイルに各種添加剤を配合。
粘度・ISO 32（第4石油類危険等級Ⅲ）

商品サイズ：50（φ）×180（H）mm
形式・用量：液体・ 200㎖

サイドジャッキアップに…
F-26-1 ジャッキアタッチメント

フロアージャッキを使用して、パンタジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップする場合にご使用ください。

商品サイズ：50（φ）×30（H）mm
重　　量：90g